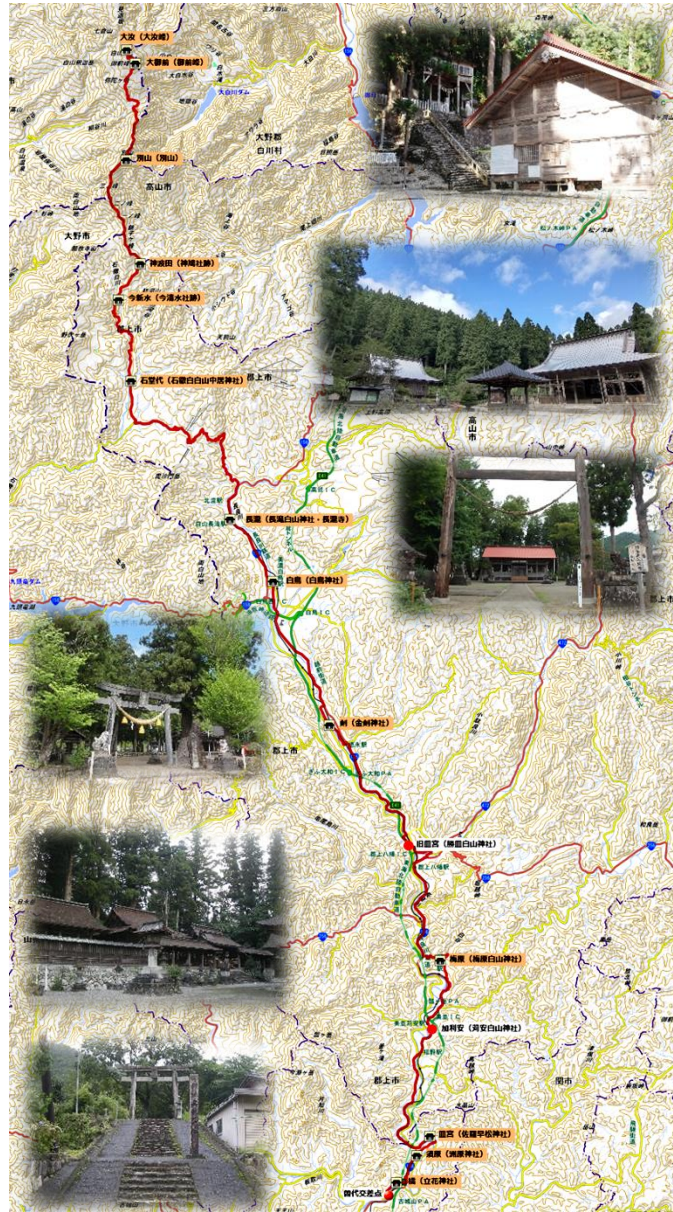


白山曼荼羅から読み解く

美濃禪定道



越前の僧、泰澄大師による養老元年(717年)の「白山の開山」をきっかけにして、白山の峰々は神仏にたとえられ、美濃禪定道はそこへ至る道の一つとして多くの人たちが参詣に往来したと伝わります。

その道筋や道中の巡礼地については、美濃馬場の社寺に残る古文書や、当時の参詣者たちが書き記した道中記により大まかには伝えられてきましたが、近年になり中世に美濃馬場で制作された白山曼荼羅図が富山県南砺市の上梨白山宮から発見されたことにより、当時の参詣ルート的一端が明らかになりました。

本講座では、この上梨白山宮の白山曼荼羅図を読み解きながら、中世の美濃禪定道と現在も残る道中の巡礼地をご紹介します。

期 日 令和5年2月12日(日)

13:00 開場 13:30 開演 15:30 終演

講 師 小阪 大(こざか ゆたか)・白山市教育委員会 文化財保護課主幹

会 場 白鳥ふれあい創造館(郡上市白鳥町白鳥 359-26)

入場料 無料

主 催 白鳥観光ガイドの会 **後 援** 白鳥観光協会

受講申込 受講を希望される方は、お名前とご連絡先を下記までお知らせください

白鳥観光協会(TEL 0575-82-5900 FAX 0575-82-5901)